

研究Ⅲ「今こそ真のパラダイムシフトを！」

藤島高校はSSHの取り組みとして、教科「研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の授業を行っています。先週の福井大学岩崎先生の講演に引き続き、「研究Ⅲ」の授業として、ポストコロナ社会を考える講演をzoomで東京とつないで実施しました。

1 目的

研究Ⅲの単元「社会のあり方を考える」として、昨今の新型コロナウイルス感染症への対応に係る諸問題をとおして、答えのない問いを解決する態度を育成するために、専門家による講演を行い、社会に潜在する課題に気づく。

2 日時 令和2年6月24日(水) 7限 15時～15時50分

3 講師 堅達京子氏 (NHKエンタープライズ エグゼクティブプロデューサー)

※NHK入局後、環境問題をライフワークに様々なドキュメンタリー番組を制作

4 概要

(1) 講演の内容

- ・新型ウイルスの出現には自然環境破壊が大きく関わっており、大量生産・大量消費型の経済から持続可能な経済へと転換するパラダイムシフトが求められている。
- ・世界のビジネス界はコロナ危機以前から地球が置かれている危機的な状況に気づき、脱炭素社会や脱プラスチック社会へと移行、日本は其中で遅れをとっている。
- ・新しい生活様式の中、私たちが持たなければならないことは「未知のものへの謙虚さ」「他人の痛みへの想像力」「人を動かすコミュニケーション力」である。
- ・コロナ禍のいまこそ、チャレンジすることの大切さを胸に新たな時代を切り拓こう。



(2) 生徒からの質問

- ・格差社会と言われるいま、全ての人を救うことはできるのだろうか。
→できないことを見つけるのではなく、一步踏み出そうとする事の積み重ねが重要。未知の課題に対応するには、多様性こそが強みとなる。
- ・分散型社会における地方の重要性について、どのように考えるか。
→エネルギーを自給自足できることが大切であり、地方にはその強みがある。再生可能エネルギーへの取り組みや食料の自給率の高さなどに注目することが重要。

